

ふるさと情報の発信

里地地域は、概念的には「いつまでも変わらない心のふるさと」です。しかし、現実には、過疎化が進み、高齢化が進んで、里地の風景は変わります。人の流れを呼び戻し「ふるさと」として機能させるための取り組みがあります。

事例 ^{あやべし} 京都府綾部市

ふるさと情報拠点

「ふるさと」としての里地の良さを都市の人々に伝えるため情報拠点を作り、1年を通じたイベント情報、地域産品の紹介、田舎暮らしの体験ツアーなど、宿泊機能や通信販売の申込先などの機能を果たしています。



地域の廃校をふるさとの情報発信と都市の人々の交流拠点に活用

空き屋情報

田舎暮らし希望者の最大の関心事は、住居と経済的な自立の手だてです。仕事、空き屋情報と修復費用、病院、交通事情など、役場が情報拠点を設け、情報収集と発信を、地域住民と調整しながら行っています。



田舎暮らしの入居者が決まり、やぶ払いを終えた民家

田舎暮らし体験ツアー

田舎暮らし体験ツアーは、若い家族連れ、高齢の夫婦、職場の仲間同士など、さまざまな参加者がいます。参加者の多くは、将来田舎暮らしをしたいという希望を持っています。体験ツアーは、地域の暮らしの一部を体験し、農村側と都市側の双方が、これからの里地生活を考える場という側面があります。



民泊先で家庭料理を囲み、農村と都市の暮らしの違いに話がはずむ



トラクターに乗せてもらい、大喜の都会っ子

ふるさと絵地図

自分たちの地域はどのような地域でしょう。地域の宝物、住民の特技などの情報は、体験ツアーやふるさと情報の発信に有効です。住民とともに調査を行い、関心を高め、絵地図や写真の整理を行いましょう。



『とよさとにし つばさのはえるちず』京都府綾部市豊里西地区